大長崎都市圏総合開発地域

土地分類基本調査

肥前小浜

5 万分の 1

国 土 調 査

長 崎 県

1 9 7 3

序　　文

本県は，九州の北西部に位置し，未だ汚されていない美しい自然と，歴史と伝統によって個性的に形成されてきた豊かな人文的資産があります。

エネルギー問題を軸としてゆれ動く国際情勢のもとで，これまでの高度経済成長に伴う過密公害等をはじめとする諸々の歪みが厳しく問われ，わが国経済社会の将来像の大きな転換が要求されている今日でありますが，本県は，恵まれた環境を保全しつつ，その特性を生かし活用することによって，将来の新しい社会に対応し，均衡ある県勢発展を目指し得る豊かな可能性を有していると確信いたしております。この可能性のうえに立って，本県では，現在，生活圏を基盤にすべての県民が都市的利便を享受し，豊かな環境のもとで快適な生活を営み得るよう中核都市を中心に，各地域の特性に応じて，都市機能の分化・産業の適正配置をすすめて一体化を図る「都市圏構想」の検討を進めているところであります。

本調査は，この都市圏構想の具体化に必要な諸調査のうち，最も基礎的なものとして，「地形」「表層地質」「土じょう」を主要素とする土地条件を科学的・総合的に調査することを目的として，国土調査法に基づく開発地域土地分類基本調査として，経済企画庁の国土調査費補助金を得て実施することになったのであります。

昭和４８年度は，その初年度として「肥前小浜」「長崎」「大村」の三図幅を調査いたしましたが，昭和４９年度以降も逐次地域ごとに実施していく計画であります。

この調査の成果を行政に利用されることは勿論，広く関係者に活用されることを希望いたします。

最後に，この調査の実施に当り，温いご指導・ご助言を賜わった経済企画庁国土調査課の方々，炎天の中で調査にたずさわった調査機関の方々，資料収集，調査等に積極的にご協力いただいた関係市町村をはじめ関係者各位に対しまして心から謝意を表する次第であります。

昭和４９年３月

長崎県企画部長

ま　え　が　き

1．本調査は，長崎県開発地域土地分類基本調査作業規程に基づき，長崎県企画部（企画課）農林部（総合農林試験場）・長崎大学教育学部の諸機関により実施したもので，調査の事業主体は長崎県である。

2．本調査の成果は，国土調査法施行令第２条第１項４号の２の規定による土地分類基本調査図および土地分類基本調査簿である。

3．調査基図は，測量法第２７条第２項の規定により建設大臣が刊行した５万分の１地形図を使用した。

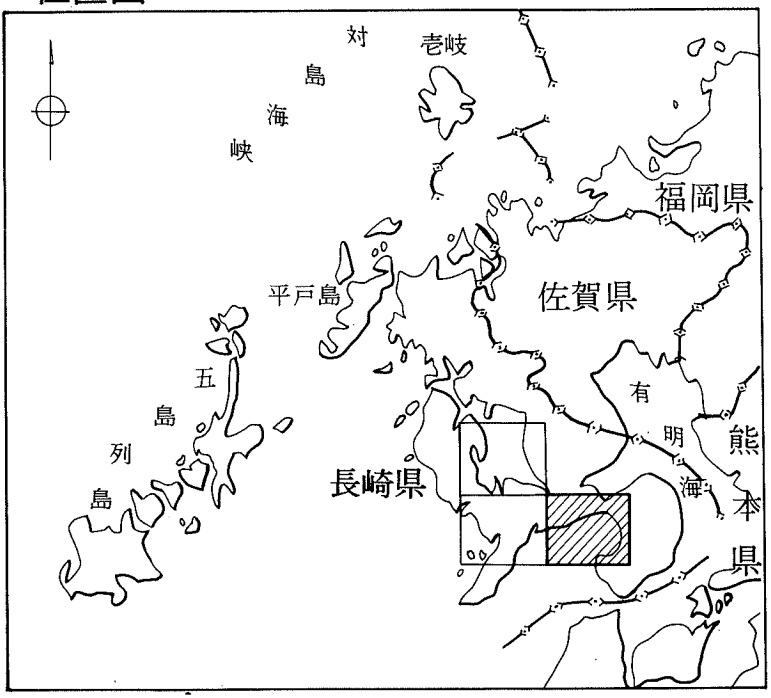
4．調査の実施・成果作成の関係機関及び関係担当者は次のとおりである。

指　導	経済企画庁総合開発局国土調査課		
総　括	長崎県企画部企画課	課　長	木戸忠之
		土地対策室長	松本重寿
		企画調査員	中島昌訓
		主　査	田浦仁也
		主　事	永石征彦
		主　事	上原　晃
		主　事	南里雅彦
地形調査 開発関連調査 （傾斜区分，水系・谷密度，開発規制）	長崎大学教育学部	教　授	石井泰義
表層地質調査 開発関連調査 （防　災）	長崎大学教育学部	教　授	鎌田泰彦

土壌調査	長崎県総合農林試験場	科長	小野末太
		技師	松尾俊彦

協力機関　長崎県関係各課および関係出先機関ならびに図幅内関係市町村

位置図



目　　次

序　文

まえがき

総　論

I. 位置および行政区画…… 1

1. 位　置

2. 行政区画

II. 地域の特性…… 2

1. 自然条件

2. 社会経済条件

III. 主要産業の概要…… 8

IV. 開発の現状と方向…… 11

各　論

I. 地形分類図…… 13

II. 表層地質図…… 18

III. 土壌図…… 22

IV. 開発関連図…… 27

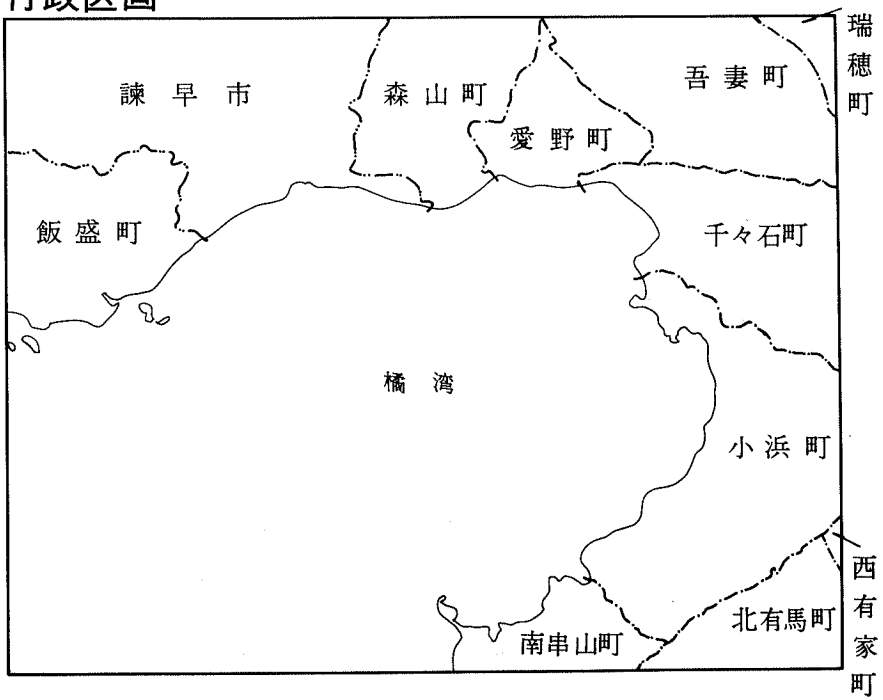
総　　論

Ⅰ　位置および行政区画

1. 位置：「肥前小浜」図葉は長崎県の南部に位置し，経緯度は東経130°0′～130°15′北緯32°40′～32°50′の範囲である。図葉全域の面積は，433.17Km²，そのうち陸地面積は213.20Km²である。

2. 行政区画：本図葉の行政区画は，諫早市，北高来郡森山町，飯盛町，南高来郡瑞穂町，吾妻町，愛野町，千々石町，小浜町，南串山町，北有馬町および西有家町の1市10町からなっている。図葉内の市町村面積は第1表のとおりである。なお，西有家町は図葉内に含まれる面積が狭小であるので特記事項以外は以下の記述ではふれない。

行政区画



第1表　図葉内の市町村別面積

区分 / 市町村名	図葉内面積 実数A (Km²)	図葉内面積 構成(%)	市町村全面積 B (Km²)	A／B (%)
諫早市	47.42	22.3	146.79	32.3
北高来郡森山町	19.29	9.0	23.30	82.8
飯盛町	21.20	10.0	24.95	85.0
南高来郡瑞穂町	3.43	1.6	27.36	12.5
吾妻町	26.26	12.3	32.96	79.7
愛野町	11.65	5.5	11.87	98.1
千々石町	23.93	11.2	32.59	73.4
小浜町	37.87	17.8	52.26	72.5
南串山町	9.65	4.5	15.21	63.4
北有馬町	12.23	5.7	26.59	46.0
西有家町	0.27	0.1	29.08	0.9
計	213.20	100.0	422.96	50.4

資料：建設省国土地理院調べ（47.10.1現在）但し，図葉内面積は企画課調べ

Ⅱ　地域の特性

1．自然条件

ア．気象条件

この地域は，九州型気候区のうち西海型気候区に属する気候であり,山間地及び一部有明海側の内陸型気候の影響を受ける地域を除き,年平均気温16～17℃，1月の平均気温は6℃以上，または年間降水量2000㎜を越えるところが多い。この温暖多雨という点で最も九州的な気候ということができよう。

沿岸部では，特に温暖であるが，これは明らかに対馬暖流の影響である。長崎県は海岸線が複雑でその延長が長いので，それだけ海の影響を受けることも多く，そのため冬は暖かく，夏は比較的涼しいといった海洋性の気候に恵まれている。

資料：九州の気候（福岡管区気象台）

第2表　　月間平均最高気温　　1°C

観測所＼月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	平均
西諫早	12.1	10.2	14.7	19.3	23.1	26.6	30.3	30.9	27.0	22.5	17.1	12.5	20.5
雲仙岳	7.2	5.7	9.4	14.6	17.9	21.1	24.0	24.1	21.1	17.4	11.4	7.5	15.1
雲仙公園	9.1	7.4	10.7	15.9	19.3	22.4	25.5	26.0	22.9	19.4	13.0	9.3	16.7
口之津	13.5	12.4	15.9	19.9	24.0	26.6	29.9	31.7	28.4	23.2	18.4	13.3	21.4

注　昭和47年1月～12月

第3表　　月間平均最低気温　　1°C

観測所＼月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	平均
西諫早	1.8	2.6	3.6	8.3	12.9	16.9	23.3	22.0	17.2	10.9	6.9	1.6	10.7
雲仙岳	0.8	−0.8	1.8	6.1	10.5	14.4	19.2	18.0	14.6	9.8	5.2	0.7	8.4
雲仙公園	1.4	0.7	3.5	7.4	11.8	15.5	20.3	19.6	15.9	10.8	5.9	1.1	9.5
国之津	4.8	5.3	6.6	10.5	14.1	18.3	22.9	22.6	19.7	13.7	8.9	4.8	12.7

注　昭和47年1月～12月

第4表　　月間降水量　　1 mm

観測所＼月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	平均
西諫早	254	129	198	287	228	553	673	201	221	163	173	82	3,162
雲仙岳	308	169	233	306	256	787	629	312	231	166	193	100	3,283
雲仙公園	335	177	245	351	275	849	658	346	263	161	217	101	3,690
口之津	151	134	164	199	197	446	261	267	103	144	133	68	2,267

注　昭和47年1月～12月　（資料）　長崎県気象月報（長崎海洋気象台）

第5表　　観測所の位置

観測所名	所在地	東径	北緯	海抜	摘要
西諫早	諫早市貝津町 長崎統計事務所	130°01′5	32°50′0	10 m	図葉内北側
雲仙岳	南高来郡小浜町 雲仙絹笠山	130°15′2	32°44′5	849	図葉外東側
雲仙公園	南高来郡小浜町 雲仙基地事務所	130°15′9	32°44′4	668	図葉外東側
口之津	南高来郡口之津町 口之津海員学校	130°11′7	32°36′4	0	図葉外南側

イ．土地利用の現況

関係市町村の土地利用の現況は，第6表のとおり，農用地主体の利用形態を示しており，基幹産業が農業であることを物語っている。県平均耕地率17.6％に対し，この地域の耕地率は29.3％と高く，特に愛野町46.8％，森山町44.8％，南串山町42.0％とかなり高い比率を示している。これは，この地域が，諫早市・森山町等の有明海に面した地域の高性能，高反収の米麦作，愛野町・千々石町・南串山町などを始めとして島原半島地域の馬鈴薯，野菜，果樹などの産地化が進行していることによるものである。

今後も一層，農業構造改善事業の推進や，農産物市場の拡大，道路輸送条件の改善などにより，本県の食料基地として重要な役割を果たすことが可能であろう。

また，島原半島は，昭和7年わが国で初めて指定された雲仙天草国立公園を擁し，さらに千々石湾（橘湾）の景観を生かしたレジャー・リゾートの場としての利用も大であるので，花卉花木などの新産地形成をはじめ，第三次産業と結びついた農業開発が進むであろう。

林業については，林産物を供給する経済的な役割とともに，国土の保全，水資源の涵養，多量の有機質を含んだ水の供給源，あるいは鳥獣資源，風致景観の保全，保健保養等の公益的な機能を持つものであり，本地域の自然的特質を十分考慮した森林資源の開発が必要である。特に広葉樹の保護については，十分留意することが大切である。

商工住宅地は，国道３４号線，５７号線の沿線に集中しているが，近年都市化の波が３４号線，２５１号線沿いに長崎市，諫早市方向より延びてきている。

第6表　土地利用の現況

市町村	総土地面積(A)	耕地面積(B) 田	畑	樹園地	計	耕地率 (B)／(A)	森林面積 (C)	森林率 (C)／(A)
諫早市	14,679	2,207	1,124	539	3,870	26.4	6,498	44.3
森山町	2,330	785	171	89	1,045	44.8	734	31.5
飯盛町	2,495	308	514	62	884	35.4	985	39.5
瑞穂町	2,736	398	248	256	902	33.0	1,071	39.1
吾妻町	3,296	675	337	212	1,224	37.1	1,289	39.1
愛野町	1,187	271	221	64	556	46.8	316	26.6
千々石町	3,259	236	238	153	627	19.2	2,446	75.1
小浜町	5,226	200	417	170	787	15.1	3,267	62.5
南串山町	1,521	105	470	64	639	42.0	478	31.4
北有馬町	2,659	406	237	285	928	34.9	1,255	47.2
西有家町	2,908	387	273	283	943	32.4	1,368	47.0
計	42,296	5,978	4,250	2,177	12,405	29.3	19,707	46.6
比率	(100.0)	(14.1)	(10.1)	(5.1)	(29.3)	—	(46.6)	—

資料：長崎県統計年鑑　長崎県の林業

2。社会経済条件

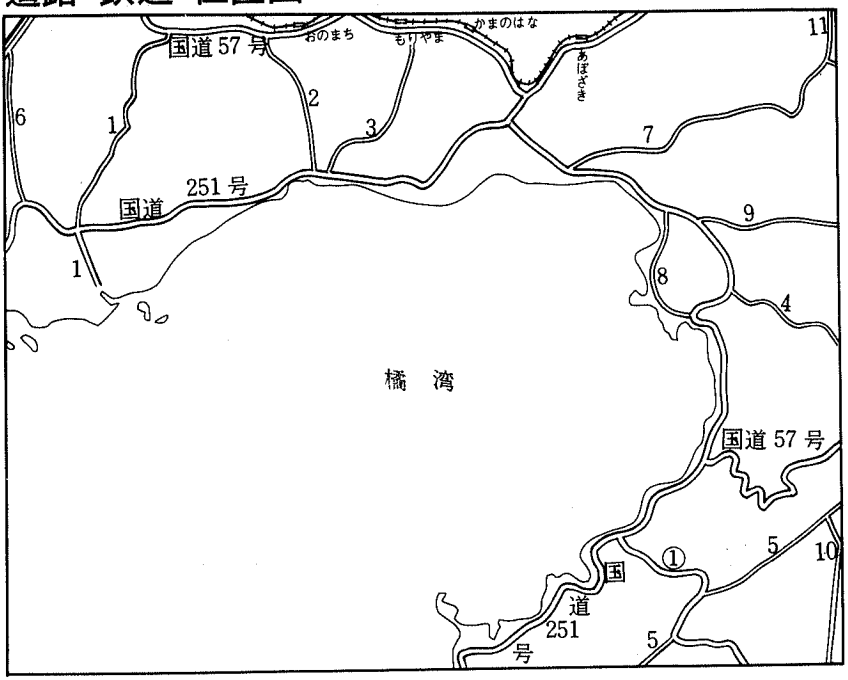
ア．交通

本図葉地域は，国道３４号，５７号，２５１号および主要地方道　小浜・北有馬線，１１本の一般県道等により道路網が形成されている。これらは農業及び観光を軸とした地域開発の動脈として重要な役割を果たしており，特に国道３４号線・５７号線は九州国際観光ルートとして脚光を浴びている。また，国道２５１号線の改良は，新しい産業

居住空間への胎動を秘めている。

鉄道については，国鉄長崎本線，私鉄島原鉄道が通っているが，本地域はバス輸送が発達し，それに負うことが大きい。

道路 鉄道 位置図



1. 道　路

国　道

路線名	起点	終点	主要な経過地
34号線	鳥栖市	長崎市	佐賀市，武雄市，大村市，諫早市
57号線	大分市	長崎市	大分県大飼町，熊本市，三角町，島原市 小浜町，諫早市
251号線	長崎市	諫早市	飯盛町，愛野町，小浜町，口之津町，島原市 国見町，愛野町

主要地方道

小浜北有馬線（①）

一般県道

江ノ浦諫早線 (1)　有喜本諫早停車場線 (2)　大里森山肥前長田停車場線 (3)
雲仙千々石線 (4)　口之津雲仙線 (5)　田結久山線 (6)　愛野島原線 (7)
北野千々石線 (8)　平石千々石線 (9)　矢次南有馬線 (10)
野田道西郷港線 (11)

2. 鉄　道

路線名	起点	終点	主要な経過地
長崎本線	鳥　栖	長　崎	佐賀，肥前山口，肥前鹿島，諫早
島原鉄道	諫　早	加津佐	島原

イ. 人　口

図葉内関係市町村の人口密度は，1 Km^2 当り304.0人であり，県平均384.4人に比し，密度は低い。

人口の推移を見ると，昭和35年までの10年間に6.4％の人口減少であり，昭和40年から45年までの5年間では2.5％の人口減少を示している。これは，昭和30年後半からのいわゆる過疎化現象によるもので，農業労働人口の流出，若年層の他産業への流出に起因するものである。ただこの中にあって諫早市は緩やかながらも人口増加の傾

向を示しており，特に国道３４号線沿線には，中小工場団地，人口２万人を擁する西諫早ニュータウンの建設が進められており，今後更に大巾な人口増加が見込まれる。

第７表　　関係市町村の人口推移

年次 / 市町村名	３５年(人)	４０年(人)	４５年(人)	４５／３５(%)	４５／４０(%)	人口密度(４５年) １Km² あたり(人)
諫早市	64,506	63,886	65,261	101.2	102.2	444.6
森山町	6,949	6,475	6,148	88.5	94.9	263.9
飯盛町	9,489	8,848	8,182	86.2	92.5	327.9
瑞穂町	7,471	6,761	6,403	85.7	94.7	234.0
吾妻町	10,327	9,332	8,742	84.7	93.7	265.4
愛野町	4,862	4,679	4,350	89.5	93.0	366.5
千々石町	8,493	7,836	7,119	83.8	90.8	218.4
小浜町	17,624	17,188	16,483	93.5	95.9	315.4
南串山町	6,986	6,511	5,919	84.7	90.9	389.2
北有馬町	7,186	6,579	6,056	84.3	93.0	227.8
計	143,893	138,095	134,663	93.6	97.5	304.0

資料：国勢調査

Ⅲ．主要産業の概要

本図葉内の関係市町村の就業人口は，昭和４５年６２,６１５人で昭和４０年６１,０７６人に比し２.５％と微増を示している。第８表の産業別就業人口の構成をみると，第１次産業４３.４％，第２次産業１４.５％，第３次産業４２.１％となっており，県平均の第１次産業２８.７％，第２次産業２２.８％，第３次産業４８.５％に比し，第１次産業の就業率が相当高く農業地域であることを物語っている。

さらに第３次産業については，この地域の中心都市である諫早市のウェートが高く，また小浜町は長崎県の観光を代表する雲仙，小浜の二大温泉地を有し,サービス業の占める割合が

高い。

第8表　産業別就業人口の構成（45年）

産業別 / 市町村名	総数	第一次産業				第二次産業				第三次産業
		計	農業	林業狩猟業	漁業	計	鉱業	建設業	製造業	
諫早市	29,779	8,857	8,200	14	643	5,299	62	2,007	3,230	15,623
森山町	2,947	1,836	1,817	2	17	460	25	246	189	651
飯盛町	3,749	2,248	1,881	2	365	460	22	257	181	1,041
瑞穂町	3,240	2,209	2,133	5	71	410	—	195	215	621
吾妻町	4,285	2,812	2,658	5	149	488	2	216	270	985
愛野町	1,990	995	991	—	4	299	5	128	166	696
千々石町	3,186	1,738	1,649	13	76	549	4	345	200	899
小浜町	7,886	2,628	2,381	2	245	725	—	404	321	4,533
南串山町	2,767	1,848	1,745	—	103	254	1	99	154	665
北有馬町	2,786	2,035	2,022	2	11	143	5	82	56	608
計	62,615	27,206	25,477	45	1,684	9,087	126	3,978	4,982	26,322
比率	(100.0)	(43.4)	(40.6)	(0.1)	(2.7)	(14.5)	(0.2)	(6.3)	(8.0)	(42.1)
県全体に占める割合	9.0	13.6	16.4	3.8	3.9	5.7	1.0	7.8	5.3	7.8

資料：国勢調査

第9表　主要産業の状況

	農業			漁業		製造業			商業	
	農家数	うち専業	農業粗生産額	経営体数	総漁獲高	事業所	従業員	製造品出荷額	商店数	年間販売額
	戸	戸	百万円	体	百万円	所	人	百万円	店	百万円
諫早市	4,769	836	4,044	205	284	212	3,698	13,341	1,185	41,160
森山町	1,010	243	906	51	25	1	x	x	59	248
飯盛町	1,249	288	1,109	169	149	19	68	71	101	1,047
瑞穂町	964	206	972	100	10	11	621	1,153	88	363
吾妻町	1,291	279	1,532	74	18	24	119	230	144	962
愛野町	454	87	567	1	3	8	414	1,323	85	505
千々石町	963	158	594	45	114	43	233	379	103	1,071
小浜町	1,474	379	1,025	101	339	211	588	260	270	2,768
南串山町	816	295	895	116	135	58	341	167	82	458
北有馬町	967	432	993	—	—	6	33	39	97	674
計	13,957	3,203	12,637	862	1,077	593	6,115 プラスx	16,963 プラスx	2,214	49,256
県全体に占める割合	14.7	17.0	18.3	4.8	1.6	11.0	6.9	4.4	8.3	6.4

資料：長崎県勢要覧（48年版）

Ⅳ. 開発の現状と方向

橘湾に面したこの地域は，長崎県でも有数の農業適地であり，玉ねぎ・馬鈴薯・みかん・人参・白菜・ハウス野菜などの主産地を形成し，雲仙岳周辺では畜産もさかんである。また橘湾は，片口いわし・えび類などの水産資源に恵まれている。

さらに，この地域は多良岳・雲仙岳を見はらし，有明海・橘湾・大村湾を見おろす豊かな自然景観地であり，これらの天与の資源と果樹・畜産・魚貝類などの地域産物と結んだ産業観光は，大きく発展するものと期待されており，余暇を重視する国民生活の将来動向に十分対応し得る豊かな可能性を有している。

最近，長崎市への人口・産業の集中傾向が限界に近づきつつあり，計画的・積極的に本地域を含む周辺市町村へ分散化を促進する必要性が重視されてきている。このことは，新大村空港長崎新幹線・九州横断自動車道などの大型プロジェクトの導入と相俟って，新たな開発可能性への起爆力となり得るであろう。

従って，自然環境を十分生かし，地域の農漁業の振興を踏まえた大長崎都市圏形成を軸とした新しい生活空間を創り得る土地利用の検討を進めている。

（長崎県企画課）

各　　論

Ⅰ．地　形　分　類　図

1．地形の概要

本図幅の陸上部は，ほとんど火山地でおおわれている。東部の中央に雲仙火山の西部に当る絹笠山火山地および九千部山火山地があり，千々石断層崖以北には，鉢巻山火山地が隣接する。また，南には，金浜川のアーク状流路を境として，北有馬火山地が接している。

鉢巻山火山地の西には，愛野地峡を隔てて蓮華石岳火山地が接し，さらに小倉川～有喜川の地溝状河谷を境として牧野火山地，その西には東大川～江ノ浦川の地溝状河谷を隔てて，八天岳火山地が蟠踞している。図幅中の非火山地域は，図幅の西北隅に，碁盤辻山地ならびに第三紀層よりなる丘陵地が分布するにすぎない。なお、地形の概観を得て、地形の性状およびその分布を細説するため次の地形区を設定した。

Ⅰ．山地・山麓

Ⅰa　絹笠山西部火山地

Ⅰa′　同上山麓

Ⅰa－1　高岳大起伏火山地　　Ⅰa－2　猿葉山・駕立物中起伏火山地

Ⅰa－3　木指・野取小起伏火山地

Ⅰb　鉢巻山火山地

Ⅰb′　同上山麓

Ⅰb－1　鉢巻山大起伏火山地　　Ⅰb－2　鉢巻山中起伏火山地

Ⅰb－3　鉢巻山小起伏火山地

Ⅰc　北有馬火山地

Ⅰc′　同上山麓地

Ⅰc－1　北有馬中起伏火山地　　Ⅰc－2　北有馬小起伏火山地

Ⅰd　蓮華石岳火山地

Ⅰd′　同上山麓地

Ⅰd－1　蓮華石岳中起伏火山地　　Ⅰd－2　星ケ原小起伏火山地

Ⅰe　牧野火山地

Ⅰf　八天岳火山地
Ⅰf′　同上山麓地
Ⅰf－1　八天岳中起伏火山地　　Ⅰf－2　平木場小起伏火山地

Ⅰg　碁盤ノ辻山地
Ⅰg′　同上山麓地
Ⅰg－1　碁盤ノ辻中起伏山地　　Ⅰg－2　高岳小起伏山地

Ⅱ．低　地

Ⅱa　小浜低地
Ⅱa－1　千々石三角州　　Ⅱa－2　千々石川谷底平野
Ⅱa－3　千々石崖錐　　Ⅱa－4　千々石海岸砂丘
Ⅱa－5　富津谷底平野　　Ⅱa－6　北野扇状地
Ⅱa－7　小浜谷底平野　　Ⅱa－8　金浜川谷底平野

Ⅱb　愛野低地
Ⅱb－1　田川谷底平野　　Ⅱb－2　舟津川谷底平野
Ⅱb－3　愛野干拓平野

Ⅱc　飛子低地
Ⅱc－1　諏訪池谷底平野　　Ⅱc－2　坂下川谷底平野

Ⅱd　森山低地
Ⅱd－1　唐比干拓地　　Ⅱd－2　二反田川谷底平野
Ⅱd－3　鷺崎三角州　　Ⅱd－4　諫早干拓地

Ⅱe　有喜低地
Ⅱe－1　小倉川谷底平野　　Ⅱe－2　有喜川谷底平野

Ⅱｆ　飯盛低地

Ⅱｆ－１　江ノ浦川谷底平野　　Ⅱｆ－２　東大川谷底平野

Ⅱｇ　久山低地

Ⅱｇ－１　西大川谷底平野　　Ⅱｇ－２　久山川谷底平野

２．地形細説

２－１　山地・山麓（Ⅰ）

２－１－１　絹笠山火山地（Ⅰａ）

雲仙火山活動の第１期に相当する絹笠山火山（８６０ｍ），および第２期の九千部火山（１０６２ｍ）の西部に当り，北は千々石断層，南は弧状の金浜川河谷との間の火山地である。山体は角閃安山岩からなり，高岳（７７１.１ｍ）を中心に４００ｍ以上の大起伏量を示して（Ⅰａ－１）西海岸に迫っている。北部の野取付近や南部の駕立場付近の山地（Ⅰａ－２）は２００～４００ｍの中起伏量を示し，小起伏山地（Ⅰａ－３）に移行している。駕立場付近の中起伏山地と小浜背後の小起伏山地との境界にはアーク状の急崖が発達している。同じ中起伏量を示す猿葉山（３９２.３ｍ）は，西岸にトロイデ状に孤立している。山麓地は５０～１００ｍの起伏量を示すが，海岸段丘状の地貌を呈する。

２－１－２　鉢巻山火山地（Ⅰｂ）

鉢巻山（６３８ｍ）は千々石断層によって，その山体の南半分を失ない起伏量は４００ｍ以上の大起伏山地（Ⅰｂ－１）となり，その北方は火山性扇状地状に次第に低くなり，中起伏の山地（Ⅰｂ－２）に漸移し，更に傾斜１５°～２０°内外の緩斜面を有し，かつ谷密度の大きい小起伏山地（Ⅰｂ－３）に移行する。山麓部は，３°内外の緩傾斜の扇状地状となり，末端部は岩石段丘に移行している。

２－１－３　北有馬火山地（Ⅰｃ）

火山性扇状地の扇頂部と南串山の日原付近とに中起伏山地（Ⅰｃ－１）がかずかに分布するが，大部分が小起伏山地（Ⅰｃ－２）で，割石原，諏訪池西方に溶岩台地を有する。小起伏山地（Ⅰｃ－２）には，遷移点が数多く配列し，数回にわたる新期の噴出物の堆積が推定される。小起伏山地と山麓地（Ⅰｃ′）との境界付近にも遷移点が点在し，山麓地は段丘地形を呈し，段丘崖を有する。

2－1－4　蓮華石岳火山地（Ⅰd）

蓮華石岳（280.3m），獅子喰岳（237m）は中起伏量を示す山地（Ⅰd－1）で，その周辺は小起伏山地（Ⅰd－2）をなし，獅子喰岳と星ケ原との間には溶岩台地が地塁状に介在する。山麓地（Ⅰd′）は傾斜8°～15°の緩斜面，その末端には岩石段丘が分布している。

2－1－5　牧野火山地（Ⅰe）

小起伏量を示す低平な火山地で，傾斜3°～8°の緩斜面が広範を占め，台状火山の原型保存が良好である。牧野北方の緩斜面はゴルフ場に利用されている。

2－1－6　八天岳火山地（Ⅰf）

江ノ浦川谷底平野の西には，八天岳（296.7m），飯盛山（280m），佐田岳（281.2m）は中起伏量のトロイデ火山（Ⅰf－1）で，その周辺に小起伏火山地（Ⅰf－2）を付随する。

2－1－7　碁盤ノ辻山地（Ⅰg）

碁盤ノ辻は山頂が比較的平担で，南部は中起伏量を示し（Ⅰg－1），北部は小起伏山地をなすが，高岳（137.9m）の山頂部は，平担な溶岩台地である。

2－2　低　地（Ⅱ）

2－2－1　千々石低地（Ⅱa）

雲仙温泉地帯から流下する千々石川は山地を深く刻んで，谷壁の傾斜は40°内外，谷密度30～40で大きく，谷底平野（Ⅱa－2）は狭小である。木場に到って幅を広げるが，猿葉山に到って狭谷となり，野田では扇状地を広げ，前面に三角州（Ⅱa－1）を有する。三角州の北方には，千々石断層崖の崩壊による崖錐（Ⅱa－3）が発達し，海岸には砂丘（Ⅱa－4）がある。

富津谷底平野（Ⅲa－5）は木場南方で谷底平野を示すが，千々石川の旧流路に当り，富津との間には遷移点がある。北野扇状地（Ⅱa－6）は巨礫に富む土石流による扇状地である。小浜谷底平野（Ⅱa－7）は狭小で，山麓沿いは湧水に富み，また小浜温泉を湧出する。金浜川谷底平野（Ⅱa－8）は絹笠火山地と北有馬火山地との境界をなし，北向きのアーク状構造を示し，谷密度の大きいことを特色としている。

2－2－2　愛野低地（Ⅱb）

田川（Ⅱb－1），舟津川（Ⅱb－2）は，鉢巻山火山地を深く刻み，特に前者の上流では谷密度が大きい。これらの河川の上流は，千々石断層崖近くまで達し，鉢巻山火山地を大きく3つに区分している。

2－2－3　飛子低地（Ⅱc）

北有馬火山性扇状地上を流下する河谷（Ⅱc－1）は中流の諏訪池その他の溜池を経て，飛子に至る。この間数ケ所に遷移点を有する。有明海に流下する坂下川ならびにその支流の河谷（Ⅱc－2）は，標高200m付近に遷移点を有する。

2－2－4　森山低地（Ⅱd）

蓮華石岳火山地の東南隅に唐比干拓地（Ⅱd－1）があり,二反田川上流には井牟田上名に湖盆状の低地（Ⅱd－2）があり，峡谷を経て，三角州（Ⅱd－2）をつくり，干拓地に達する。鷺崎・島崎・宮崎付近は三角州（Ⅱd－3）があり，その前面は中世以後の諫早干拓地（Ⅱd－4）である。

2－2－5　有喜低地（Ⅱe）

有喜川谷底平野（Ⅱe－1）と小倉川谷底平野（Ⅱe－2）とは地溝状に南北に連なり，蓮華石岳火山地と牧野火山地の境界をなしている。この地溝状の谷底平野の両岸には比高5～10mの河岸段丘が発達し，有喜段丘は砂礫段丘である。

2－2－6　飯盛低地（Ⅱf）

江ノ浦谷底平野（Ⅱf－1）と東大川谷底平野（Ⅱf－2）は地溝状に南北に連なり，有喜低地と全く同型の低地で，江ノ浦川の両岸には5～10mの河岸段丘が発達し，下釜段丘は砂礫段丘である。

2－2－7　久山低地（Ⅱg）

この図幅の北西隅には，碁盤ノ辻山地を刻み，大村湾に流出する西大川,久山川の谷底平野（Ⅱg－1，Ⅱg－2）がある。

参　考　文　献

辻村太郎：断層地形論考　古今書院（昭和17年　4月）

辻村太郎：日本地形誌　古今書院（昭和22年10月）

石井泰義：千々石断層崖の崩壊と地形発達

（社会科論叢　第8号・長崎大学学芸学部　1958年）

（長崎大学教育学部　石　井　泰　義）

Ⅱ．表 層 地 質

本図幅の中央には千々石湾（橘湾）が拡がり，それを取りかこむ陸地は，東部の島原半島と北西部の諫早地峡とに分けられ，両地域の境界は愛野町と森山町との町境に，ほぼ一致する。地質・地形的に見ると，東部は雲仙火山の西麓に当り，山地の高度差も大きく，岩質は主として粗粒の斑晶をもつ黒雲母角閃石安山岩よりなる。これに対し，北西部の西側には広く古第三系が分布し，これを被覆して分布する著しく風化の進んだ火山円礫岩は台地性地形をつくる。その東側には有喜火山とよばれる安山岩や凝灰角礫岩よりなる丘陵がある。また図幅の西端には，古第三系を貫いて噴出した飯盛溶岩円頂丘群があり，八天岳・飯盛山・佐田岳は，それぞれ独立して，いわゆるトロイデ型の火山体をつくる。

図幅の北端部には，有明海の肢湾である泉水海（諫早湾）に面した沖積平野が発達するが，干拓により陸化した部分が広い面積を占めている。また森山町の安山岩分布域内の山間盆地の井牟田や，海浜礫堤の発達で閉じこめられた潟に発達した唐比の泥炭地は，共に沖積層によって埋積され，後に水田化している。千々石にも，海浜砂嘴の内側の潟が水田化している。

1．未固結堆積物

1－1　砂礫堆積物（sg）

雲仙火山の山麓部を枝状に細かに刻み込んだ放射状の谷の下流部には，砂礫堆積物により充たされる。また新しい扇状地性の砂礫堆積物は，千々石町野田付近に分布し，堆積面は段丘状となる。

愛野町唐比海岸には，西より延びた安山岩の円礫よりなる礫堤が発達し，更にその延長の愛野展望台直下の浜にも，約3Kmにわたって礫浜が発達する。

1－2　砂がち堆積物（s）

本図幅内の真の砂質堆積物は，千々石海岸の砂浜であり，砂丘をともなう。浜砂は，雲仙火山を構成する安山岩に由来するため，角閃石と斜長石に富み，きわめて粗粒である。

1－3　泥がち堆積物（m）

前述の唐比の礫堤，千々石の海岸砂丘の内側の沼沢地には泥質堆積物が堆積し，とくに唐比では泥炭を含むことはよく知られている。これに類似した沖積地は，飯盛町江ノ浦，諫早市有喜，南串山町京泊にも分布する。

有明海沿岸の干拓地には，典型的な沖積粘土層が発達し，有明粘土層とよばれている。この泥質堆積物は貝がらを多量に含む海成層であり，その基底部は海面下３０ｍにも及ぶ所がある。

２．半固結堆積物

２－１　砂礫および粘土（段丘堆積物）（ｔ）

飯盛町下釜には，標高２０ｍの平担面をもつ中位段丘が発達する。この段丘堆積層の下半部には多量の貝類化石を含み，下釜貝層とよばれ，リスーウルム間氷期の生成とされている。貝層の上位には安山岩の巨礫を含有する段丘礫層が重なる。

図幅の北西隅に当る諫早市貝津工業団地の平担面は低位段丘をあらわし，礫まじりの粘土とローム層により構成された段丘堆積物が古第三系諫早層群の上に重なる。

２－２　火山円礫岩（火山泥流）（ｖｆ）

雲仙火山の山麓部に分布する。角閃石安山岩の細～大礫を含む砕屑物で，よく成層する。愛野展望台より千々石海岸に至る国道２５１号線にそった断崖に典型的に露出する。固結度は，一般に低いが，上部には基質があたかも溶結したように，かなり固まった部分がある。

多良岳火山に属すると考えられる火山円礫岩は，飯盛町東部や諫早市国際ゴルフ場付近に広く分布し，標高１５０ｍの段丘状地形をつくる。これにはいわゆる“クサリ礫”を含み，基質もまた粘土質であり，風化帯は非常に深く，軟弱である。原岩は後に述べる有喜火山岩類の凝灰角礫岩の疑いもあるが，風化帯が顕著に発達する所から，ここでは半固結岩の分類中に含めた。

３．固結堆積物

固結堆積物（堆積岩）としては，図幅の北西部に分布する古第三系諫早層群と，南東部にわずかに分布する口之津層群（鮮新～洪積統）がある。

３－１　泥岩を主とする部分（ｍｓ）

諫早層群の最下部をなす江ノ浦層は，全層が暗灰色泥岩よりなり，有孔虫化石を含む海成層である。飯盛町江浦川下流域の平野の周辺部に広く分布する。岩質は均質で単調であるが，上部になるに従い，砂岩の薄層を板状に挾在するようになる。

３－２　泥岩と砂岩の互層（ｍｓ，ｓｓ）

諫早市土師野尾付近に分布する互層は，江ノ浦層の泥岩と，上位の毛屋層の砂岩との漸移部をなし，土師野尾層（または蛎道層）とよばれる。板状砂岩と泥岩との厚さの変化は場所と層

準により著しく変化する。

3－3　砂岩を主とする部分（ss）

本図幅の北西部に広く分布し，毛屋層で代表される。岩質は，細粒～中粒の白色砂岩が顕著であり，風化すると一般に明るい褐色を呈する。薄い泥岩をはさんで板状をなす場合が多いが塊状の場合には石垣用石材の採石の対象となる。最上部にはひんぱんに薄炭層を含み，淡水貝（オオシジミ）化石を産する。図幅の北西隅の城山には海緑石を含む切宮層の砂岩が分布する。

3－4　泥岩および砂礫（ms，s，g）

本図幅の南東部には口之津層群が分布する。本層群は固結度のやや低い泥岩と砂岩の互層よりなるが，層準によって古期岩類の円礫を含む粗粒砂よりなる固結度の低い堆積層と重なり合う。

4．火山性岩石

東部地域の大部分は雲仙火山の噴出物で占められるが，西部には有喜火山岩類として安山溶岩と凝灰角礫岩が分布し，その連続と考えられる火山岩類が南東部の南串山町にも分布する。

4－1　黒雲母角閃石安山岩（雲仙型）（Ab_1）

雲仙火山を構成する火山岩であり，粗晶の斜長石と角閃石を含むのを特徴とする。図幅内では九千部火山に属するいくつかの独立した山体により構成されるが，鉢巻山や猿葉山などは寄生火山である。鉢巻山の南斜面には，千々石断層により形成された断層崖が顕著にあらわれている。

4－2　角閃石安山岩（飯盛溶岩円頂丘型）（Ab_2）

雲仙型安山岩とともに，山陰系の火山岩として，飯盛町内に典型的な溶岩円頂丘（ラバドーム）をつくる角閃石安山岩が分布する。

一般に斑晶の発達は雲仙型に比べると貧弱であるが，八天岳の角閃石斑晶は小粒ながら明瞭である。

4－3　複輝石安山岩（森山安山岩）（Ab_3）

有喜火山岩類とよばれる森山町一帯の火山岩は，複輝石安山岩により構成される。同類の安山岩は，隣接する長崎図幅の小江原安山岩，大村図幅の大村安山岩であり，九州北，中部に分布する筑紫溶岩（豊肥溶岩）の一員をなす。森山町役場以東の本岩には角閃石が含まれ，岩質がやや軟かくなる。

南串山町国崎半島，小浜町諏訪ノ池，北有馬町割石原付近にも，森山安山岩に相当する灰色

を呈する安山岩が分布する。

4－4　安山岩質凝灰角礫岩（Tb）

本岩は上述の複輝石安山岩の下に横たわる。飯盛町東部では本岩と，風化の著しく進んだ火山円礫岩（Vf）との境界はきわめて不明瞭である。

4－5　玄武岩（Ba）

南串山町や北有馬町にかけて，複輝石安山岩の流出の前後に玄武岩溶岩が形成されている。また図幅の北西部の高岳と碁盤ノ辻の山頂部には，諫早層群を被覆する玄武岩の小露出が分布する。

5．応用地質

本図幅内には地下資源としてみるべき鉱床は発達していないが，森山町と飯盛町内において採石が盛んに行われている。また唐比ではかって泥炭が採掘されたことがある。

5－1　石　材

森山安山岩は，バラス（粗骨材）・栗石・間知石として採石されている。現在稼行中のものは，バラスが3カ所，間知石9カ所ある。とくに間知石の採石場は，森山町の蓮華石岳と星ケ原一帯に集中する。飯盛型の安山岩は，間知石として佐田岳と八天岳において採石され，廃石は栗石として利用される。

5－2　泥　炭

唐比海岸の礫堤の内側に堆積した泥炭は，固定炭素8.2％，発熱量1770 cal の分析値をもつ。かって，これを採掘・乾燥・粉砕して，養鶏場の脱臭剤として加工したことがある。

（長崎大学教育学部　鎌　田　泰　彦）

おもな参考文献

赤木　健（1935）：7万5千分の1地質図幅「島原」　地質調査所

赤木　健（1936）：7万5千分の1地質図幅「口之津」　地質調査所

鎌田泰彦・堀口承明・井上昌幸（1973）：長崎県千々石湾の底質－とくに泥質

堆積物の分布について－　長崎大教育自然科学研報　第２４号
６１～７９頁
Sendo, T., Matsumoto, H. and Imamura, R. (1967)
:Geology and Petrography of Unzen volcano.
Kumamoto Jour Sci, ser. B, sec. 1, Geol.,
vol. 7, no. 1, p. 31～89.
山崎達雄・松本徳夫・蒲田正俊（１９６５）：諫早炭田の地質（附．九州北西部諸炭田との関係）九州大生産科学研究所報告，第４０号，
１－２５頁

Ⅲ．土　　壌

１．山地の土壌

１－１　土壌の概要

橘湾の東，島原半島の西斜面は大起伏で傾斜も急であり，その南北斜面はゆるやかな勾配で丘陵，台地がひろがっている。雲仙由来の火山灰堆積土壌が散在するが乾性,適潤性の褐色森林土が広く分布する。一方，西北の諫早市近郊には２００ｍクラスの丘陵が点々と連なり小起伏複雑な地形となっている。一部の沖積地帯を除けば安山岩を母材とし，乾性，適潤性褐色森林土が大半を占めるが，やや溶脱を受けており，赤褐系の森林土壌も各所に現われる。

１－２　細　説

１－２－１　乾性褐色森林土壌

島原半島の尾根，台地，急峻な匍行面，諫早市近郊低山地帯の凸部に出現する。若干の腐植混入層を持ちマツを上木とし，ヒサカキ，ネズミモチ 等 が中段，ウラジロ，コシダ林床といった形の林相が多い。ヒノキ植栽等に利用されている。

１－２－２　乾性褐色森林土壌（黄褐系）

島原半島西南向きの尾根に小面積分布する。物理性は上記乾性褐色森林土壌と大差ない。

１－２－３　乾性褐色森林土壌（赤褐系）

諫早市近郊の頂部に散在する。粘土含量が高く理学性に難点があるうえ，乾性の環境のため南向き斜面や風衝地では植生も貧弱である。

1－2－4　褐色森林土壌

図幅全体にわたり広く分布する。島原半島のものは面積もまとまっており，長崎県としては生産力も高いのでヒノキ・スギが盛んに植栽され，県下林業地帯の一つとなっている。諫早市近郊のものは低起伏のためか乾性土壌の比率が高くなる。しかし，造林は滲透しており，部分的には極めて良好な生長を示している。

1－2－5　褐色森林土壌（黄褐系）

島原半島西向きの沢沿いに小面積みられる。理・化学性に優れ，地形にも恵まれて良好な造林地となっている。

1－2－6　褐色森林土壌（赤褐系）

諫早市近郊の沢沿いに小面積づつ散在する。ヒノキ植栽に利用され良好な生長を示すものが多い。

1－2－7　黒ボク土壌

黒色火山灰が表層を被覆し，その厚さが５０㎝未満のもので下層は褐色を呈する場合が多い。島原半島の尾根，台地等に散在する。理・化学性に劣るが経済林地として利用されており，部分的には褐色森林土と大差ない生長を示す。但し台地や，緩斜面のもので堅密な表，下層を持つ土壌ではヒノキ４０年生時の樹高で８～９ｍといった事例もみられる。

1－2－8　厚層黒ボク土壌

堆積火山層が50㎝以上の土壌で雲仙の山頂付近にみられる。匍行面のためか，意外に理学性が良く，植栽木は普通程度の生長をみせている。

1－3　山地の土壌と土地利用

島原半島は雲仙国立公園地域を含み，図幅中1,２００ｈａ程度は，この規制を受ける。しかし山林の大半は経済林として利用され，それなりの生産性を示している。ヒノキが多く植えられているが，傾斜のあるところでは大きな問題はみられない。北部台地状地形，西南部の緩斜面では植栽されたヒノキがよく立枯れを起す。これは傾斜がゆるいうえ，母材も保水性に富むため排水が悪く，梅雨時に地下水位が高まり，一時的に湛水し，還元状態になる結果と考えられる。危険が予想される箇所にはスギを植えるなどの工夫が必要である。

諫早市近郊の低山は乾性土壌の比率が高い。低起伏のため土地の改変が容易であり，今後ますます人為が加えられよう。諫早市は古い樹叢も多く落着いた街である。無計画な開発によっ

って悔を後世に残さぬような配慮が望まれる。

2．丘陵低地の土壌

2－1　土壌の概要

北部は佐田岳，飯盛山，碁盤の辻，八天岳，金比羅岳，蓮華石岳，獅子喰岳等の低山と江ノ浦川，東大川等，小河川による沖積地および有明海の海成沖積地から形成される。丘陵台地の土壌は安山岩の風化物を母材とする黄色土壌が多く，一部には赤色土壌が出現する。主として普通畑として利用されている。江ノ浦川流域の低地は地下水位が高いグライ土壌である。
その他の小河川の流域には褐色低地土壌が分布し，下層に礫層が出現するのもある。
諫早平野は干拓地で灰色低地土壌，グライ土壌が分布し，土性は微粒質である。森山町唐比，井牟田上名，諫早市有喜には泥炭土壌および黒泥土壌が分布している。
東部（島原半島の西部）は雲仙山地からつらなる丘陵台地と雲仙山地に源を発する小河川による沖積地から形成されている。丘陵台地の土壌は安山岩の風化物を母材とする黄色土壌が多く一部には赤色土壌が出現する。主として普通畑として利用されている。

諏訪池周辺の一部および愛野町・吾妻町の一部には黒ボク土壌が出現し，主として普通畑として利用されている。低地の土壌は灰色低地土壌が多く南串山の一部には黒泥土壌がみられる。
諫早平野につづく干拓地はグライ土壌で，下層に礫層を有することがある。

2－2　土壌細説

2－2－1　厚層黒ボク土壌

黒褐色～黒色の腐色層を有する土壌で，腐植層の厚さは７５cm～１００cmである。表土の土性はＣＬ，下層土はＬである。南串山町，森山町に分布し，みかん園および普通畑として利用されている。

2－2－2　黒ボク土壌

表層に黒褐色の腐植層を有する土壌で，腐植層の厚さは２０～４０cmである。土性はＣＬである。愛野町，吾妻町の台地に分布し，主にばれいしょが栽培されている。

2－2－3　多湿黒ボク土壌

表層には腐植層を有しないが，地表下３０cm付近に腐植層を有する土壌である。北有馬町に分布し，水田として利用されている。

2－2－4　淡色黒ボク土壌

表層には腐植層を有しないが，地表下３０～９０㎝に腐植層を有する土壌である。表土の土性はＣＬ，下層土はＣＬ～Ｃである。愛野町，吾妻町に分布し，主としてばれいしょが栽培されている。

２－２－５　赤色土壌

下層土の土色が５ＹＲ４／４より赤い土壌である。安山岩の風化物を母材とする土壌で表土の土性はＣＬ～Ｃ，下層土はＣである。台地および丘陵斜面に分布し，ほぼ全市町にまたがっており，主としてばれいしょ，しょうが，人参等の栽培とみかん園として利用されている。

２－２－６　黄色土壌

下層土の土色が５ＹＲより黄色味の強い土壌である。

安山岩の風化物を母材とし，表土の土性はＣＬ～Ｃ，下層土はＣである。全市町の台地および丘陵斜面に分布する残積土壌で，ばれいしょ，しょうが，人参等の栽培とみかん園として利用されている。

２－２－７　暗赤色土壌

赤色土に似ているが，それよりも明度，彩度ともに低く，下層土の土色は５ＹＲ４／４又はそれ以下である。表土の土性はＣＬ～Ｃで，下層土はＣである。安山岩系の残積土壌で分布および利用は赤色土壌とほぼ同じである。

２－２－８　褐色低地土壌

下層土の土色が黄褐色の土層からなる低地土壌である。

鉄・マンガンの斑紋結核を多く含み，表土の土性はＣＬ，下層土はＣＬ～Ｃである。諫早市の小河川の流域に分布し，水田として利用されている。

２－２－９　粗粒褐色低地土壌

下層土の土色が黄褐色の低地土壌で，地表下３０㎝内外に円礫層を有する。鉄の斑紋を多く含む。土性は表土，下層ともにＣである。

諫早市の小河川の流域にわずかに分布し，水田として利用されている。

２－２－１０　細粒灰色低地土壌

上層土の土色が灰色～灰褐色の低地土壌で，表土の土性はＣＬ～Ｃ，下層土もＣＬ～Ｃである。本土壌統群は２つのタイプに分かれ，１つは有明海の干拓地で，他の１つは安山岩系の風化物を母材とする低地土壌で雲仙山系の小河川の流域に分布する。

鉄の斑紋を含み，水田として利用されている。

２－２－１１　細粒グライ土壌

作土直下より以下グライ層か，地表下６５㎝内外でグライ層が出現する低地土壌である。土性はＣで，鉄の斑紋を含み，マンガン結核を含むことがある。作土直下よりグライ層が出現する土壌は主に飯盛町江ノ浦川流域に分布し，地表下６５㎝内外でグライ層が出現する土壌は主に諫早平野の有明海干拓地に分布する。両者ともに水田として利用されている。

２－２－１２　グライ土壌

地表下３０㎝内外でグライ層が出現する低地土壌で土性はＬである。愛野町の小河川の流域にわずかに分布し，水田として利用されている。

２－２－１３　粗粒グライ土壌

地表下２０㎝内外でグライ層が出現する低地土壌で，表土の土性はＣＬ，下層土はＣであるが，グライ層と同じ位置より以下円礫層となっている。

愛野町，吾妻町に分布し，水田として利用されている。

２－２－１４　低位泥炭土壌

表土の土色は灰色で，作土下より黒褐色～黒色の泥炭が出現する低地土壌である。地表下４０㎝以下グライ層で，土性はＣである。森山町の唐比に分布し，水田として利用されている。

２－２－１５　黒泥土壌

表土の土色は灰色～灰褐色で２０㎝内外以下より黒褐色～黒色の黒泥が出現する低地土壌である。黒泥の出現位置より以下グライ層で，土性はＣである。諫早市有喜森山町井牟田上名，南串山町の海岸近くに分布し水田として利用されている。

（長崎県総合農林試験場　小　野　末　太）

IV. 開 発 関 連 図

1. 防 災 図

(1) 地すべり防止区域

地域名		所在地		地域面積(ha)	家屋数(戸)	告示年月日	地すべり地の概況	所管
区域名	関係河川名	郡市	町村				発生年月日	
内倉	内倉川	大村市	大里	11.96	18	36. 5. 17	29. 31. 32年	建設
江川	江川	〃	葛川内	28.44	9	44. 3. 19	S32年～37年	農林

資料：県河川砂防課，耕地課調

(2) 砂防指定地

番号	河川名		所在地	指定関係事項		着工
	幹川名	渓流名		告示年月日	面積(ha)	竣工
1	本明川	宗方川	諫早市小野町	32. 11. 28	0.90	32年34年
2	仁反田川	本川	北高来郡森山町	28. 12. 14	0.44	28 29
3	〃	〃	〃	32. 11. 13	3.10	32 32
4	千々石川	〃	南高来郡千々石町	24. 12. 7	0.70	22 25
5	〃	上峰川	〃	25. 9. 15	0.37	21 22
6	〃	〃	〃	37. 11. 14	1.10	36 36
7	〃	皈岳川	〃	41. 5. 26	5.70	40 41
8	山田川	黒仁田川	南高来郡吾妻町	32. 12. 21	0.90	32 33
9	〃	牧の内川	〃	〃	2.80	35 35
10	船津川	船津川	南高来郡瑞穂町	35. 12. 14	1.30	35 36
11	千々石川	千々石川	〃 千々石町	42. 7. 31	2.39	42 42
12	川内川	川内川	〃 南串山町	47. 2. 14	3.30	45 46
13	有明川	今木場川	〃 愛野町	〃	5.60	45 46
14	有馬川	高江川	〃 北有馬町	47. 3. 29	4.05	47 48
15	〃	釘山川	〃	〃	3.25	
16	山田川	長谷川	〃 吾妻町	47. 8. 15	15.12	46 47
17	久山川	久山川	諫早市久山石原畑	48. 5. 22	2.75	48 49

資料：県河川砂防課調

(3) 急傾斜地崩壊危険区域

番号	指定区域名	所在地	告示年月日	面積	人家
①	上井樋	飯盛町	46. 5. 4	1.78 ha	21 戸
②	川下名中	〃	〃	0.8	5
③	野中名石原	〃	〃	0.93	5
④	後田名湯穴	〃 (追加)	46. 5. 4 47. 12. 19	4.1 0.5	27 13
⑤	大下不動山	〃	46. 5. 4	1.85	30
⑥	西屋敷地区	諫早市	45. 12. 1	1.52	78
⑦	田端	愛野町	45. 9. 22	0.207	7
⑧	木下	〃	〃	0.103	6
⑨	新崎	〃	〃	0.28	12
⑩	中島	〃	〃	0.193	5
⑪	中ノ場(A)	南串山町	48. 8. 7	0.36	12
⑫	中ノ場(B)	〃	〃	0.66	10
⑬	平	〃	〃	0.55	6
⑭	田ノ平波戸	〃	〃	0.45	20
⑮	西平	〃	〃	1.90	37
⑯	西浜	〃	〃	1.5	8
⑰	椎木川	〃	〃	1.2	8
⑱	板引	〃	〃	2.8	10
⑲	後山	〃	〃	0.5	8

資料：県河川砂防課調

2．開発規制図

(1) 国 立 公 園

	総 面 積	長崎県域分（14市町）
雲仙天草国立公園	25,665.2ha	13,029ha

昭和 9年 国立公園指定 13,029ha
昭和32年 天草諸島追加指定 12,571ha
昭和42年 天草五橋沿岸追加指定 65.2ha

(2) 県 立 公 園

公 園 名	指定年月日	関係市町村	公園面積	利用型式	公園の特色
島原半島県立自然公園	S45. 1. 20	15市町計	1,835.0 ha	ピクニック	海岸景観地域
		島 原 市	15.0	フィッシング	歴史景観地域
		有 明 町	82.3	海 水 浴	
		国 見 町	189.2	キャンピング	岩石海岸
		• 瑞 穂 町	150.0		砂浜海岸
		• 吾 妻 町	200.0		暖地性海岸林
		• 愛 野 町	62.5		
		• 千々石町	337.6		岩戸山樹叢
		• 小 浜 町	287.2		原城跡
		• 南串山町	33.1		日ノ江浦跡
		加津佐町	106.3		その他埋蔵文
		口之津町	243.7		化財
		南有馬町	42.9		
		• 北有馬町	73.0		
		• 西有家町	10.6		
		布 津 町	2.2		

資料：県立自然公園調書（県自然保護課）

（注） 1. 面積は図上測定である。 2. •印は本図葉内関係市町村

(3) 保 安 林

市町村名	総数		水源かん養林	土砂流出防備林	土砂崩壊防備林	防風林	魚つき林	その他
	箇所数	面積						
諫早市	19	1,254.31	1,022.30	232.01	—	—	—	—
森山町	7	36.43	—	33.15	—	3.28	—	—
飯盛町	5	15.17	1.26	4.04	—	0.42	—	9.45
瑞穂町	7	167.47	145.67	19.30	—	2.50	—	—
吾妻町	3	52.28	—	51.03	—	—	—	1.25
愛野町	—	—	—	—	—	—	—	—
千々石町	4	27.47	—	24.87	—	2.60	—	—
小浜町	4	9.26	3.90	—	4.49	0.87	—	—
南串山町	6	1.54	—	—	—	—	1.54	—
北有馬町	1	3.65	—	3.65	—	—	—	—
西有家町	2	45.40	45.40	—	—	—	—	—
計	58	1,612.98	1,218.53	368.05	4.49	9.67	1.54	10.70

資料：長崎県の林業（県林務課）

(4) 風 致 地 区

名称	面積	市町村名	名称	面積	市町村名
	ha			ha	
金比羅岳風致地区	89.5	諫早市	千々石海岸風致地区	36.0	千々石町
富津弁天風致地区	82.5	小浜町	城山風致地区	34.5	千々石町
湯町風致地区	120.0	小浜町	雲仙登山道沿岸風致地区	24.5	千々石町
雲仙登山道沿線風致地区	96.0	小浜町	猿葉山風致地区	218.0	千々石町

資料：県都市計画課調

(5) 鳥獣保護区

名　　称	区域	指定期間	名　　称	区域	指定期間
国設雲仙鳥獣保護区	ha 4,049	S47.11. 1 ～S51.10.31	県設諏訪池鳥獣保護区	ha 234	S45.11. 1 ～S55.10.31
県設諫早鳥獣保護区	690	S41.11. 1 ～S51.10.31	県設千々石中学校愛護林鳥獣保護区	10	S42. 3.31 ～S52. 3.30

資料：長崎県鳥獣保護区等概要図（昭和48年度）

(6) 都市計画区域

区域名	区域内市町村名	範　　囲	面　積	市街化区域	市街化調整区域
			ha	ha	ha
長崎	長崎市	行政区域の全域	20,761	4,723	16,038
	・諫早市	〃 の一部	8,210	1,385	6,825
	時津町	〃 の全域	2,072	439	1,633
	長与町	〃 の一部	1,336	342	994
	多良見町	〃 の一部	1,426	252	1,174
	香焼町	〃 の全域	434	434	0
	計		34,239	7,574	26,665
大村	大村市	行政区域の一部	3,215	—	—
伊王島	伊王島町	〃 の全域	196	—	—
千々石	・千々石町	〃 の一部	3,259	—	—
小浜	・小浜町	〃 の一部	1,745	—	—

資料：県都市計画課調

（注）　・印は本図葉内関係市町村

1974年3月　印刷発行

大長崎都市圏総合開発地域
土地分類基本調査

肥前小浜

編集発行　長崎県企画部企画課
長崎市江戸町2－13

印　刷　㈱富士マイクロサービスセンター
熊本市水前寺6丁目46－1